



2025 年 9 月 12 日

各 位

会社名 株式会社 p l u s z e r o
代表者名 代表取締役会長兼 CEO 小代義行
(コード番号: 5132 東証グロース)
問合せ先 取締役 CFO 浅川耀佑
(TEL. 03-6407-0212)

2025 年 10 月期第 3 四半期決算に関する Q & A およびオンライン説明会動画公開のお知らせ

2025 年 9 月 10 日に公表した当社の 2025 年 10 月期第 3 四半期決算に関しまして、公表以降に株主様、投資家の皆様から頂戴したお問い合わせ、ご質問等に関しまして、その内容と回答を下記のとおりお知らせいたします。

なお、本開示は、市場参加者の皆様のご理解を一層深めることを目的に当社が自主的に実施するものであります。決算内容の詳細につきましては、末尾<ご参考>に記載しております決算短信及び決算説明資料をご覧ください。

記

2025 年 10 月期第 3 四半期決算説明会動画

発表者	視聴 URL
代表取締役会長兼 CEO 小代義行	https://youtu.be/e-Aaki-NqLw

Q 1. 第 2 四半期の説明会でご紹介いただいた、「未発表の有望な分野」というのは、AI コーディングのことですか？

A 1. AI コーディングに限らず、高戦略性 AI（営業・マーケティング・M&A・資産運用等の領域でパートナーと進める取り組み）も含まれます。未発表テーマも残っており、業績インパクトが大きい適切な時点で開示します。

Q 2. AEI 関連サービス製品は従量課金での展開でしょうか？また 3 社で導入予定とのことですが、それぞれの売上予定規模を教えてくださいことは可能でしょうか

A 2. 料金は基本的に従量課金的な考え方です。各社別の売上規模は非開示ですが、AEI 売上の推移でご判断ください。3 社の導入は順調で業績インパクトは大きい見立てです。

Q 3. ユーザー数が減少している点についてご説明いただきたいです。

A 3. 大型案件化と来期スケールに向けた AEI への稼働集中（当第 3 四半期での重点投資）により、受託側の見かけ上のユーザー数が抑制されています。戦略的なリソース配分です。

Q 4. 導入準備中の 3 社のコールセンター AI が稼働する時期はいつ頃の見込みでしょうか？また、1 社あたり契約から本稼働まで平均的にどのくらいの期間を見込んでいるのでしょうか？

A 4. 稼働時期・平均期間は個別開示しませんが、稼働開始については、適切なタイミングで適時開示を行う方針でございます。本稼働までの期間に関しては、CTI の対応可否とカバー済み業務との近さで変動いたします。標準化・パッケージ化を進め導入スピードは向上中です。

Q 5. 今回の進捗率が過去平均を下回ったのは、成長鈍化ではなく一時的要因（税金・控除・費用計上のタイミングなど）によるものと考えて良いのでしょうか？

A 5. 来期以降のスケール確度を高めるための当第 3 四半期において、前倒しで投資を実行したことが主因であり、構造的な鈍化ではございません。

Q 6. 決算説明資料 P5 の図表の AI エージェントについて、なぜ 5 倍なのですか？10 倍にはならないのですか？

A 6. 業務特性とお客様の運用判断に依存します。10 倍や無人化が妥当な領域もあり得ますが、現状は品質・監督のバランス上、5 倍を代表例として示しています。

Q 7. この 3 社の売上予定は 2025 年 10 月期の決算業績予定には含まれていないという事でしょうか？理由としては、今期に間に合わないという事でしょうか？

A 7. サービス利用料の本格計上は来期の可能性が高い一方、導入準備の初期費用は今期から計上しています。

Q 8. プライム上場の大手 3 社が導入準備中とのことですが、案件はいつ頃から売上に反映されますか？

A 8. 初期費用は今期、利用料は来期以降の見込みが高いです。稼働時点で適時開示を通じて公表してまいります。

Q 9. 製造業テスト設計自動化について、なぜ当該領域をターゲットにされ、具体的なサービスはどういったもののでしょうか？

A 9. アビスト社と資本業務提携を行っており、輸送機器分野でニーズ・効果が大きい領域を選定いたしました。CAD/図面の自動テストから着手し、生成 AI で初期設計案を生成して設計初期の生産性を高めており、現場トライアルで検証を行っている段階でございます。

Q 10. 商談中の 50 社以上について、クローリング確度と売上反映時期の見通しを教えてください。

A 10. 社内では、S/A/B 等の評価はしておりますが、比率に関しては非開示とさせていただいております。

Q 11. 従業員一人あたり売上は約 1,000 万円ですが、中期的にどの程度まで伸ばしていく方針でしょうか？

A 11. 上限を設けず最大化を目指します。AI コーディングで生産性・粗利を高め、SaaS/サービス型比率上昇で労働集約度を下げていく方針でございます。

Q 12. 現在の株価についての所感をお願いいたします。

A 12. すべてを開示できていない前提で概ね適正と認識しております。一方で、今後の成長については自信を持っており、実績と開示の積み上げで、今後株価はそれに追随していくと考えております。

Q 13. アップセルテクノロジー共同開発のデジタルヒューマン「Virdy」の進捗・手応えは？

A 13. 導入要否は顧客側の業務内容に依存いたします。品質への自信は高まっており、オペレーター導入の進展に応じて展開します。導入の進捗等に応じて、適宜、適時開示にて公表してまいります。

Q 14. 通期見通し達成に向けた第 4 四半期の増益は、受注済み高確度案件が根拠ですか？それとも商談クローリング依存ですか？

A 14. 両にらみのバランスです。受注済みの高確度案件を基盤に、残期間のクローリングも積み上げてまいります。

Q 15. AEI 技術について、他社に模倣されることはございますか？

A 15. 信頼性が要求される領域では模倣難易度が高く、競合比較でも優位です。信頼性不要な領域は LLM でも十分な場合がありますが、当社の対象領域では差別化を維持しています。

Q 1 6. 市場区分変更（プライム等）についての予定や考えは？

A 1 6. 直近の変更予定はありませんが、時価総額・流動性等プライム水準は強く意識しております。恥じない実力と状態を整えます。

Q 1 7. AI オペレーター「Miraio」の稼働開始予定はいつごろでしょうか？

A 1 7. 稼働案件が決まり次第、適時開示にて公表いたします。現状、複数社にて導入を進めております。

Q 1 8. IR 対応に AEI を活用するご検討は？

A 1 8. 候補として検討しておりますが、事業インパクトとの優先順位で判断を行っていく方針でございます。また、自社受付・IR での内製活用を行い、その後、外販展開の可能性も視野に入れております。

Q 1 9. 現状は法人向けのビジネス展開がメインかと思いますが、将来的な BtoC 展開はございますでしょうか？

A 1 9. テーマ次第では、可能性はあると考えております。ただし、実施する場合であっても、B to B for C を想定しており、直接 B to C での提供を行う方針はございません。

Q 2 0. 2025 年 8 月 28 日に公表した、株式会社 Timewitch との提携は、いつ頃数値が反映されるか。また、目標はございますか？

A 2 0. 現時点では開示可能な情報はございません。開示可能になり次第、速やかに開示します。

Q 2 1. 知名度向上の戦略は？

A 2 1. AI オペレーター中心にスケール可能な大型パートナーを組成していく方針でございます。実績起点の PR を重視し、今後は状況に応じてマーク・PR 予算も拡大・高度化していく方針です。

Q 2 2. 目指す規模感（売上・利益・社員数・時価総額）や中長期の成長イメージは？

A 2 2. 具体数値は非開示となっております。高い成長・収益性を伴う「実力の積み上げ」でフェアバリューの拡大を目指します。

Q 2 3. AI オペレーター導入準備中企業のプライム 3 社の業種を開示できますか？

A 2 3. 現時点では業種も非開示となっております。稼働開始時は速やかに適時開示を通じて公表いたします。事前開示ニーズは認識しており、今後、開示可能性を検討いたします。

Q 2 4. 技術は優れているのに目立っていないのはなぜ？

A 2 4. 広告・PR 投資のタイミングと方針の差だと認識しております。実績に基づくメディア露出を重視し、適切な時点で投資を行う方針です。

Q 2 5. AI コーディングは売上にどう寄与していくか

A 2 5. ①生産性向上で粗利率改善、②同人数で多案件処理＝売上拡大、③AI コーディング導入コンサル提供、の 3 経路で寄与します。

Q 2 6. ChatGPT のような汎用商品の開発は行われるのでしょうか

A 2 6. 優先度は高くありません。AEIDesk 等のパッケージ化は進めておりますが、基本は業務・業界特化で高信頼・高戦略性を優先します。

Q 2 7. Google NotebookLM と AEI の二重過程モデルとの違いは？

A 2 7. NotebookLM は参照情報で LLM を上書きしハルシネーションを抑制しますが、当社対象業務ではそれだけでは不十分であります。二重過程モデルはルール（左脳）×学習（右脳）を組み合わせ、禁止・必須条件を仕組み化し、初手から誤りを起こさない設計が特徴となります。

Q 2 8. Web サイト更新が滞って見えるが問題視していない？発信戦略は？

A 2 8. 課題として認識しております。これまでは差別化された開発を優先しており、販売体制が整

ってきたため、サイト整備とPRに関しては、今後強化していく方針です。

Q 2 9. 一次産業（農業等）からの引き合いはありますか？

A 2 9. 現時点で目立った引き合いはありません。将来はロボティクス連携も視野に必要な応じて展開を検討いたします。

Q 3 0. AEI は海外市場でも汎用性がありますか？今後の海外展開は見込みを教えてください。

A 3 0. 言語非依存の技術であり、多言語 LLM と組み合わせて展開可能です。海外展開を行う際は、効率の高い地域・分野から進めて行く方針です。

<ご参考>

- ・ 2025 年 10 月期第 3 四半期決算短信〔日本基準〕（非連結） 2025 年 9 月 10 日公表
- ・ 2025 年 10 月期第 3 四半期 決算説明資料 2025 年 9 月 10 日公表

以 上

免責事項

本資料は、当社の企業説明、決算説明に関する情報の提供を目的としたものであり、当社が発行する有価証券への投資を勧誘することを目的としたものではありません。
本資料は、2025 年 9 月 10 日公表の 2025 年 10 月期第 3 四半期決算の内容に関して頂戴したご質問等などの内容に基づき、一部表現を修正して公表するものであります。
本資料に記載される情報は、いわゆる見通し情報を含んでおり、当該情報は本資料公表時点における当社の見解であり、将来に関する記述につきましては、今後様々な要因により変動する可能性があることをご承知おきください。